

経済政策 A・B

担当教員： 三平 剛
email： mihira@toyo.jp
研究室： 2号館 10階 21010
オフィスアワー： 火曜 15:00～15:30
講義 HP： <http://www2.toyo.ac.jp/~mihira/>

講義内容・目的

現在の日本経済は、長引くデフレ、先進国の中で最悪となっている財政赤字、急速に進展する少子高齢化、震災からの復興など、多くの困難な課題に直面している。本講義は、日本経済の直面するこのようなさまざまな政策課題を取り上げ、経済学の理論と現実の両面から議論する。

経済の諸課題について、自ら問題意識を持ち、経済学的な観点から「考える姿勢」を身につけること。これが、本講義の最大の目的であり、経済学部に入學してきた学生に最も望むことでもある。

例えば、財政赤字の問題について、財政赤字はなぜここまで膨らんだのか、財政赤字で何が悪いのか、経済や人々の生活にどんな影響があるのか、日本もギリシャのように財政危機になるのか、赤字を解消するにはどうすれば良いか、消費税の引き上げは本当に必要なのか…。あるいは、デフレについて、デフレとはそもそも何で、その要因は何か、物価が下がることがなぜ問題なのか、デフレを脱却するにはどうしたら良いか、アベノミクスはデフレ脱却に効果があるのか…。こうしたことについて、本講義を通じて、自ら問題意識を持って考えるようになってほしい。

講義では、これらの問題を考える上で参考となる、経済政策に関する知識や理論を紹介する。ただし、それらはいくまでも考えるためのヒント・道具にすぎない。関心を持った問題については、そうしたヒントを基に、自ら調べ、考え、自分自身の意見や解決策を探究してほしい。経済政策に唯一の「正解」はない。テレビなどの報道を見てもわかる通り、上で挙げた財政赤字やデフレなどの問題をとって、10人いれば10通りの意見がある。そうした問題を題材にして、自分自身の意見や解決策を得るための「考える力（問題解決能力）」を身につける。これが、本講義の第2の目的である。

「経済政策」は、理論と現実がぶつかるスリリングな領域を扱う科目である。現実の経済や政策が理論で説明される知的興奮と、理論の妥当性が現実で検証される緊張の双方がある。受講生には、経済の理論と現実の緊張関係がもたらすスリルを感じて欲しい。

到達目標

日本経済の抱える問題について、自ら問題意識を持ち、経済学的な観点から考え、自分

なりの解決策を提示することができる（＝「考える姿勢・力（問題解決能力）」を身に付ける）。具体的には、以下の通り。

- (1) 関心・意欲：日本の経済問題を自ら関心を持って考える姿勢がある
- (2) 問題設定力：日本の経済問題を的確に把握し、論点を設定できる
- (3) 情報収集力：論点に関する資料や文献を調べ、問題の解決に必要な情報を得られる
- (4) 論理力：調べた情報を整理・分析し、論理的に議論を組み立てて結論を導きだせる
- (5) 説明力：組立てた議論や結論を、説得的に提示できる

講義スケジュール

経済政策A（春学期）

- 第1回 経済政策の役割(1)：経済政策とは何か
- 第2回 経済政策の役割(2)：政府の役割と市場（民間）の役割
- 第3回 経済政策の役割(3)：景気変動と政府の役割
- 第4回 財政政策(1)：景気対策と財政政策
- 第5回 財政政策(2)：乗数効果
- 第6回 財政政策(3)：公共投資
- 第7回 財政政策(4)：財政再建・財政構造改革
- 第8回 財政政策(5)：地方財政改革と地方格差
- 第9回 金融政策(1)：金融政策の手段とメカニズム、日本銀行の役割
- 第10回 金融政策(2)：ゼロ金利政策、量的金融政策
- 第11回 金融政策(3)：インフレ・ターゲット政策
- 第12回 金融政策(4)：デフレ克服
- 第13回 バブルと金融危機(1)：バブルと不良債権のメカニズム
- 第14回 バブルと金融危機(2)：日本の不良債権問題
- 第15回 バブルと金融危機(3)：世界金融危機

経済政策B（秋学期）

- 第1回 民営化(1)：過去の民営化事例（JR, NTT）
- 第2回 民営化(2)：郵政民営化
- 第3回 民営化(3)：郵政民営化と財政投融资改革・政策金融改革
- 第4回 民営化(4)：政府の役割と市場（民間）の役割再考
- 第5回 規制改革(1)：規制改革の流れ
- 第6回 規制改革(2)：規制改革の効果（消費者余剰分析）
- 第7回 規制改革(3)：最近の規制改革の動き
- 第8回 産業・貿易政策(1)：貿易の利益、自由貿易の推進とWTO交渉
- 第9回 産業・貿易政策(2)：保護貿易と産業政策
- 第10回 産業・貿易政策(3)：産業貿易政策の変遷と最近の動き（FTA, TPP等）
- 第11回 産業・貿易政策(4)：環境政策、地球温暖化問題
- 第12回 社会保障政策(1)：社会保障の役割
- 第13回 社会保障政策(2)：年金制度改革
- 第14回 社会保障政策(3)：医療制度改革
- 第15回 雇用政策：若年雇用、非正規雇用問題を中心に

※. 講義の進捗により変更の可能性あり

指導方法

以下の3点を重視して講義を行う。

- (1) 具体的な現実の政策課題を取り上げて議論する
- (2) なるべく多くのデータや分析例を用い、日本の経済政策の効果と実態を明らかにする
- (3) 経済政策に関する理論と現実を常に突き合わせる

事前準備

講義のトピックごとに、「自主学習」として学生に考えてもらいたい論点を提示するので、事前に自分なりに考え、自らの意見を持った上で、講義に臨んでほしい。

なお、参考書の関連する箇所も同時に提示するので、目を通しておくと、講義の理解が一層深まるはずである。

事後学習

「自主学習」の論点について、講義で示されたヒントを踏まえて、再度、自分なりに考えてほしい。その際、特に関心をもった論点については、さらに深く、自分で関連する文献や新聞記事等を探して調べ、探究してほしい。

意欲がある学生は、Toyonet-Aceの経済政策のページの掲示板で、履修生同士でこれらの論点について議論してほしい。

成績評価

期末の筆記試験による(100%)。試験は論述中心とし、評価にあたっては、知識の習得よりも、上記到達目標にある「考える姿勢・力(問題解決能力)」(=関心・意欲、問題設定力、情報収集力、論理力、説明力)を重視する。

テキスト

教科書は特に指定しない。講義は講義中に配布するプリント(上記講義用HPよりダウンロード可)を基に行う。

参考書として以下を挙げておく(いずれも、経済学の理論と日本経済の現実をバランスよく扱ったものである。3つ全て買う必要はない。手にとって、自分にあったものを1冊選んで手元に置いておくと、予習・復習の際に役立つと思う)。

金森久雄ほか編(2013)『日本経済読本(第19版)』東洋経済新報社

三橋規宏ほか(2012)『ゼミナール日本経済入門(第25版)』日本経済新聞社

岩田規久男・飯田泰之(2006)『ゼミナール経済政策入門』日本経済新聞社